



ソフトウェア アップグレード

[ソフトウェアアップグレード (Software Upgrades)] のオプションを使用して、次のタイプのインストールおよびアップグレードを実行できます。

- [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : このオプションを使用すると、アプリケーションソフトウェアのアップグレード、Cisco Unified Communications Manager Locale Installer とダイヤルプランのインストール、Cisco Unity Connection ロケールのインストール、デバイスパック、電話機のファームウェア ロード、およびその他の COP ファイルのアップロードとインストールを実行できます。
- [TFTP ファイル管理 (TFTP File Management)] : このオプションを使用すると、電話機が使用するさまざまなデバイス ファイルを TFTP サーバにアップロードできます。アップロードできる TFTP サーバファイルには、カスタム呼び出し音、コールバック トーン、電話機の背景画像などがあります。

ソフトウェアのアップグレードとインストール

このバージョンの Cisco Unified Communications Manager では、システムの動作中に、サーバにアップグレードソフトウェアをインストールできます。システムには、2つのパーティション（アクティブなブート可能パーティションと非アクティブなブート可能パーティション）が存在します。システムは、アクティブなパーティションというマークが付いたパーティションで完全に起動して動作します。

アップグレードソフトウェアをインストールする場合は、非アクティブなパーティションにインストールします。ソフトウェアのインストール中も、システムは正常に機能し続けます。準備ができた後、非アクティブなパーティションをアクティブにして、新しいアップグレードソフトウェアでシステムをリブートします。システムが再起動すると、現在アクティブなパーティションが非アクティブなパーティションとして識別されます。次のアップグレードまで、現在のソフトウェアは非アクティブなパーティションに残ります。設定情報は、アクティブなパーティション内のアップグレード済みバージョンに自動的に移行されます。

何らかの理由でアップグレードを取り消す場合は、古いバージョンのソフトウェアを含む非アクティブなパーティションに切り替えてシステムを再起動することができます。ただし、ソフトウェアのアップグレード後に行った設定変更はすべて失われます。



(注)

アクティブなパーティション上のデータベースだけに変更を加えることができます。非アクティブなパーティション上のデータベースは更新されません。アップグレード後にデータベースに変更を加えた場合は、パーティションの切り替え後にその変更を繰り返す必要があります。

パッチまたはアップグレードバージョンは、DVD（ローカルソース）から、または Cisco Unified Communications Manager サーバがアクセスできるネットワークロケーション（リモートソース）からインストールできます。

最初のノードにアップグレードパッチをインストールしてから、サブスクリバノードにインストールする必要があります。複数のサブスクリバサーバにアップグレードパッチを同時にインストールできます。新しいバージョンをアクティブにする準備ができた後、最初のノードで新しいソフトウェアをアクティブにしてから、他のすべてのノードでアクティブにする必要があります。



(注)

ソフトウェアアップグレードプロセスを開始する前に、必ずシステムデータをバックアップしてください。詳細については、『*Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

ローカル ソースからのアップグレード

ローカル ディスク ドライブ内の CD または DVD からソフトウェアをインストールした後に、アップグレードプロセスを開始できます。

CD または DVD からソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco.com からダウンロードしたアップグレードファイルを使用して、アップグレードディスクを作成します。

- 拡張子が `tar.gz.sgn` のアップグレードファイルを使用する場合は、書き込み可能な DVD にアップグレードファイルをコピーします。
- 拡張子が `sgn.iso` のアップグレードファイルを使用する場合は、書き込み可能な DVD にアップグレードファイルから ISO イメージを作成する必要があります。`.iso` ファイルを DVD にコピーするだけでは機能しません。

ステップ 2 Cisco Unity Connection ロケールを追加する場合は、Connection Conversation Manager サービスを停止します。

- a. Cisco Unity Connection Serviceability を起動します。
- b. [Tools] > [Control Center - Feature Services] に移動します。
- c. [Unity Connection Services] で、[Connection Conversation Manager] をクリックします。
- d. ツールバーで、[Stop] をクリックします。
- e. [Yes] をクリックして、サービスの停止を確定します。
- f. サービスが停止するまで待ちます。

ステップ 3 アップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに新しい DVD を挿入します。

ステップ 4 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理にログインします。

ステップ 5 [ソフトウェアアップグレード (Software Upgrades)] > [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] に移動します。

[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [ソース (Source)] リストから、[DVD/CD] を選択します。

ステップ 7 [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、CD または DVD 上のパッチ ファイルへのパスを入力します。

ファイルがルートディレクトリにある場合、または ISO イメージの DVD を作成した場合は、[ディレクトリ (Directory)] フィールドにスラッシュ (/) を入力します。

ステップ 8 アップグレードプロセスを続行するには、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 9 インストールするアップグレードバージョンを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 10 次のウィンドウで、ダウンロードの進捗を監視します。

拡張子が tar.gz.sg のアップグレードファイルを使用している場合は、ダウンロードが完了すると、次のウィンドウにチェックサム値が表示されます。ISO イメージの DVD を焼いた場合、チェックサムは表示されません。

ステップ 11 このチェックサム値と、Cisco.com に表示されている、ダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。



注意

アップグレードファイルの信頼性と完全性を保証するには、2つのチェックサム値が一致する必要があります。チェックサム値が一致しない場合は、最新版のファイルを Cisco.com からダウンロードして、もう一度アップグレードを試してください。

ステップ 12 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 13 アップグレードソフトウェアをインストールしている場合は、**ステップ 14**に進みます。

Cisco Unity Connection ロケールをインストールしており、別のロケールをインストールする場合は、[他のソフトウェアをインストール (Install Another)] をクリックし、**ステップ 5**に戻ります。

別のロケールをインストールしない場合は、Connection Conversation Manager サービスを再起動します。

- a. Cisco Unity Connection Serviceability を起動します。
- b. [Tools] > [Control Center - Feature Services] に移動します。
- c. [Unity Connection Services] で、[Connection Conversation Manager] をクリックします。
- d. ツールバーで、[Start] をクリックします。
- e. [Yes] をクリックして、サービスの開始を確定します。
- f. サービスが再起動するまで待ちます。
- g. 残りの手順をスキップします。

ステップ 14 アップグレードをインストールし、自動的にアップグレード済みパーティションに切り替えてリブートする場合は、[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to upgraded partition)] を選択します。システムが再起動し、アップグレード済みソフトウェアを実行します。

ステップ 15 アップグレードをインストールした後に手動でアップグレード済みパーティションに切り替えてリブートする場合は、次の手順を実行します。

- a. [アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。
- b. [次へ (Next)] をクリックします。
アップグレードのステータスウィンドウにアップグレードログが表示されます。
- c. インストールが完了した後、[終了 (Finish)] をクリックします。
- d. システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] を選択し、[バージョンの切り替え (Switch Versions)] をクリックします。

システムが再起動し、アップグレード済みソフトウェアを実行します。

リモート ソースからのアップグレード

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからソフトウェアをアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 アップグレードするサーバからアクセスできる FTP サーバまたは SFTP サーバにアップグレード ファイルを置きます。

ステップ 2 Cisco Unity Connection ロケールを追加する場合は、Connection Conversation Manager サービスを停止します。

- a. Cisco Unity Connection Serviceability を起動します。
- b. [Tools] > [Control Center - Feature Services] に移動します。
- c. [Unity Connection Services] で、[Connection Conversation Manager] をクリックします。
- d. ツールバーで、[Stop] をクリックします。
- e. [Yes] をクリックして、サービスの停止を確定します。
- f. サービスが停止するまで待ちます。

ステップ 3 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理にログインします。

ステップ 4 [ソフトウェアアップグレード (Software Upgrades)] > [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] に移動します。

[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [ソース (Source)] リストから、[リモートファイルシステム (Remote Filesystem)] を選択します。

ステップ 6 [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、リモート システム上のパッチ ファイルを含むディレクトリへのパスを入力します。

アップグレード ファイルが Linux サーバまたは Unix サーバ上にある場合は、ディレクトリ パスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。たとえば、アップグレード ファイルが patches ディレクトリにある場合は、/patches と入力する必要があります。アップグレード ファイルが Windows サーバ上にある場合は、正しいディレクトリ パスをシステム管理者に確認してください。

ステップ 7 [サーバ (Server)] フィールドに、サーバ名または IP アドレスを入力します。

ステップ 8 [ユーザ名 (User Name)] フィールドに、リモート サーバ上のユーザ名を入力します。

ステップ 9 [ユーザパスワード (User Password)] フィールドに、リモート サーバ上のパスワードを入力します。

ステップ 10 [転送プロトコル (Transfer Protocol)] フィールドから、転送プロトコルを選択します。

ステップ 11 アップグレード プロセスを続行するには、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 12 インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 13 次のウィンドウで、ダウンロードの進捗を監視します。

ステップ 14 ダウンロードが完了した後、そのチェックサム値と、Cisco.com に表示されている、ダウンロードしたファイルのチェックサム（使用可能な場合）を照合します。



注意

アップグレード ファイルの信頼性と完全性を保証するには、2 つのチェックサム値が一致する必要があります。チェックサム値が一致しない場合は、最新版のファイルを Cisco.com からダウンロードして、もう一度アップグレードを試してください。

ステップ 15 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 16 アップグレードソフトウェアをインストールしている場合は、[ステップ 17](#)に進みます。

Cisco Unity Connection ロケールをインストールしており、別のロケールをインストールする場合は、[\[他のソフトウェアをインストール \(Install Another\)\]](#) をクリックし、[ステップ 4](#)に戻ります。

別のロケールをインストールしない場合は、Connection Conversation Manager サービスを再起動します。

- a. Cisco Unity Connection Serviceability を起動します。
- b. [Tools] > [Control Center - Feature Services] に移動します。
- c. [Unity Connection Services] で、[Connection Conversation Manager] をクリックします。
- d. ツールバーで、[Start] をクリックします。
- e. [Yes] をクリックして、サービスの開始を確定します。
- f. サービスが再起動するまで待ちます。
- g. 残りの手順をスキップします。

ステップ 17 アップグレードをインストールし、自動的にアップグレード済みパーティションに切り替えてリブートする場合は、[\[アップグレードされたパーティションをリブート \(Reboot to upgraded partition\)\]](#) を選択します。システムが再起動し、アップグレード済みソフトウェアを実行します。

ステップ 18 アップグレードをインストールした後に手動でアップグレード済みパーティションに切り替えてリブートする場合は、次の手順を実行します。

- a. [\[アップグレード後にリブートしない \(Do not reboot after upgrade\)\]](#) を選択します。
- b. [\[次へ \(Next\)\]](#) をクリックします。
アップグレードのステータスウィンドウにアップグレードログが表示されます。
- c. インストールが完了した後、[\[終了 \(Finish\)\]](#) をクリックします。
- d. システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[\[設定 \(Settings\)\]](#) > [\[バージョン \(Version\)\]](#) を選択し、[\[バージョンの切り替え \(Switch Versions\)\]](#) をクリックします。

システムが再起動し、アップグレード済みソフトウェアを実行します。

停止したアップグレード

アップグレード ソフトウェアのインストール中、アップグレードが停止しているように見えることがあります。アップグレード ログは、新しいログ メッセージの表示を中止します。アップグレードが停止した場合は、アップグレードをキャンセルし、I/O スロットリングを無効にして、アップグレード手順をやり直す必要があります。アップグレードが正常に完了したときに、I/O スロットリングを再び有効にする必要はありません。

I/O スロットリングを無効にするには、CLI コマンド **utils iothrottle disable** を入力します。

I/O スロットリングのステータスを表示するには、CLI コマンド **utils iothrottle status** を入力します。

I/O スロットリングを有効にするには、CLI コマンド **utils iothrottle enable** を入力します。デフォルトでは、**iothrottle** が有効になっています。

システムがキャンセルに応じない場合は、サーバをリブートし、I/O スロットリングを無効にして、アップグレードプロセスの手順をやり直す必要があります。

以前のバージョンに戻す

アップグレード後、システムを再起動して非アクティブなパーティション上のソフトウェア バージョンに切り替えることにより、アップグレード前に実行されていたソフトウェア バージョンに戻すことができます。

手順

-
- ステップ 1** 次の URL を入力して、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理を直接開きます。

`https://server-name/cmplatform`

ここで、*server-name* は Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名または IP アドレスです。

- ステップ 2** 管理者ユーザ名とパスワードを入力します。

- ステップ 3** [設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] を選択します。

[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** [バージョンの切り替え (Switch Versions)] ボタンをクリックします。

システムの再起動を確定すると、システムが再起動し、アップグレード前のソフトウェアを実行します。この再起動には、数分かかることがあります。

ロケールのインストール

シスコは、www.cisco.com で、ロケール固有のバージョンの Cisco Unified Communications Manager Locale Installer を提供しています。Locale Installer は、システム管理者によってインストールされます。Locale Installer により、ユーザはサポートされているインターフェイスを使用する際に、選択した翻訳済みのテキストやトーンを表示または受信することができます（適用可能な場合）。

ユーザ ロケール

ユーザ ロケール ファイルは、電話機のディスプレイ、ユーザ アプリケーション、およびユーザ Web ページに対して、ユーザが選択するロケールでの翻訳済みのテキストとボイス プロンプトを提供します（使用可能な場合）。ユーザ専用の Locale Installer は、Web 上にあります。

ネットワーク ロケール

ネットワーク ロケール ファイルは、国別の電話トーンおよびゲートウェイ トーンを提供します（使用可能な場合）。ネットワーク専用の Locale Installer は、Web 上にあります。

シスコは、1 つの Locale Installer に複数のネットワーク ロケールを結合する場合があります。



(注)

Cisco Media Convergence Server (MCS) またはお客様が用意したシスコ認定のサーバは、複数のロケールをサポートできます。複数の Locale Installer をインストールすると、ユーザは複数のロケールの中から選択できるようになります。

Cisco Unity Connection ロケール

Cisco Unity Connection ロケールは、国別のシステム プロンプト、グラフィカル ユーザ インターフェイス、およびテキスト / スピーチ機能を提供します。



注意

5 個を超える Cisco Unity Connection ロケールをインストールしないでください。

ロケールのインストール

この章で前述したソフトウェア アップグレードのインストール プロセスと同じプロセスで、ローカル ソースまたはリモート ソースからロケール ファイルをインストールできます。このプロセスの詳細については、「[ソフトウェアのアップグレードとインストール](#)」を参照してください。



(注)

新しくインストールしたロケールをアクティブにするには、サーバを再起動する必要があります。

インストールする必要があるロケール ファイルについては、「[ロケール ファイル](#)」を参照してください。サーバを再起動する前に、複数のロケールをインストールできます。

ロケール ファイル

ロケールをインストールする場合は、次のファイルをインストールする必要があります。

- ユーザ ロケール ファイル：特定の言語と国に対応した言語情報が含まれています。このファイルには、次の命名規則が使用されています。

`cm-locale-language-country-version.cop`

- 結合ネットワーク ロケール ファイル：さまざまなネットワーク項目（電話トーン、アナウンスエータ、ゲートウェイ トーンなど）に関する、すべての国に対応した国別ファイルが含まれています。結合ネットワーク ロケール ファイルには、次の命名規則が使用されています。

`cm-locale-combinednetworklocale-version.cop`

- Cisco Unity Connection ロケール：国別のシステム プロンプト、グラフィカル ユーザ インターフェイス、およびテキスト / スピーチ機能が含まれています。このロケール ファイルには、次の命名規則が使用されています。

`uc-locale-<language>-<country>-version.cop`

エラー メッセージ

Locale Installer の起動時に発生する可能性のあるメッセージの説明については、表 7-1 を参照してください。エラーが発生した場合は、インストール ログにあるメッセージを表示できます。

表 7-1 Locale Installer のエラー メッセージと説明

メッセージ	説明
[LOCALE] File not found: <language>_<country>_user_locale.csv, the user locale has not been added to the database.	このエラーは、データベースに追加するユーザ ロケール情報を含む CSV ファイルが見つからない場合に発生します。これは、ビルドプロセスのエラーを示します。
[LOCALE] File not found: <country>_network_locale.csv, the network locale has not been added to the database.	このエラーは、データベースに追加するネットワーク ロケール情報を含む CSV ファイルが見つからない場合に発生します。これは、ビルドプロセスのエラーを示します。
[LOCALE] Communications Manager CSV file installer installdb is not present or not executable	installdb という Cisco Unified Communications Manager アプリケーションが存在する必要があります。このアプリケーションは、CSV ファイル内の情報を読み取り、その情報を Cisco Unified Communications Manager データベースに正しく適用します。このアプリケーションが見つからない場合は、このアプリケーションが Cisco Unified Communications Manager と一緒にインストールされなかったか（可能性が低い）、削除されたか（可能性がある）、またはサーバに Cisco Unified Communications Manager がインストールされていない（可能性が高い）ことが考えられます。正しいレコードがデータベースに含まれていないとロケールは機能しないため、ロケールのインストールは終了します。

表 7-1 Locale Installer のエラー メッセージと説明 (続き)

メッセージ	説明
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maDialogs_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	これらのエラーは、システムがチェックサムファイルの作成に失敗した場合に発生する可能性があります。原因としては、Java 実行可能ファイル
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maMessages_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	/usr/local/thirdparty/java/j2sdk/jre/bin/java が存在しない、Java アーカイブ ファイル /usr/local/cm/jar/cmutil.jar が存在しないか破損している、Java クラス
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maGlobalUI_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	com.cisco.ccm.util.Zipper が存在しないか破損していることが考えられます。これらのエラーが発生しても、ロケールは正常に機能し続けます。ただし、
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt.Checksum.	Cisco Unified Communications Manager Assistant は、ローカライズされた Cisco Unified Communications Manager Assistant ファイル内の変更を検出できません。
[LOCALE] Could not find /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt in order to update Unified CM Assistant locale information.	このエラーは、正しい場所でファイルが見つからなかった場合に発生します。原因としては、ビルドプロセスでのエラーが考えられます。
[LOCALE] Addition of <RPM-file-name> to the Cisco Unified Communications Manager database has failed!	このエラーは、ロケールのインストール時に発生した障害が累積したために発生し、終了条件を示しています。

サポート対象の Cisco Unified Communications 製品

Cisco Unified Communications Manager Locale Installer がサポートする製品のリストについては、『Cisco IP Telephony Locale Installer for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。このドキュメントは、次の URL から入手可能です。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/callmgr-locale-51>

TFTP サーバ ファイルの管理

サーバ上で、電話機が使用するファイルを TFTP サーバにアップロードできます。アップロードできるファイルには、カスタム呼び出し音、コールバック トーン、背景画像などがあります。

デフォルトでは、tftp ディレクトリにファイルがアップロードされます。tftp ディレクトリのサブディレクトリにファイルをアップロードすることもできます。

TFTP サーバ ファイルをアップロードおよび削除するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] ウィンドウで、[ソフトウェアアップグレード (Software Upgrades)] > [TFTP ファイル管理 (TFTP File Management)] に移動します。

[TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] ウィンドウが表示され、現在のアップロード済みファイルのリストが示されます。検索条件フィールドを使用して、ファイル リストをフィルタリングできます。

- ステップ 2** ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

- a. [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
[ファイルのアップロード (Upload File)] ダイアログボックスが開きます。
- b. ファイルをアップロードするには、[参照] をクリックし、アップロードするファイルを選択します。
- c. tftp ディレクトリのサブディレクトリにファイルをアップロードするには、[ディレクトリ (Directory)] フィールドにサブディレクトリを入力します。
- d. アップロードを開始するには、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
ファイルが正常にアップロードされると、そのことが [ステータス (Status)] 領域に表示されます。
- e. ファイルがアップロードされた後、Cisco TFTP サービスを再起動します。



(注) 複数のファイルをアップロードする場合は、すべてのファイルをアップロードした後に、Cisco TFTP サービスを 1 回だけ再起動してください。

サービスの再起動については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

- ステップ 3** ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

- a. 削除するファイルの隣にあるチェックボックスをオンにします。
[すべてを選択 (Select All)] をクリックしてすべてのファイルを選択したり、[すべてをクリア (Clear All)] をクリックしてすべて選択を解除したりすることができます。
- b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。



(注) すでに tftp ディレクトリに存在するファイルを修正する場合は、CLI コマンド **file list tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルを表示し、**file get tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルのコピーを取得します。詳細については、[付録 A 「コマンドライン インターフェイス」](#) を参照してください。